

第2回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和元年 12 月 20 日（金）13:00～15:45
場所	茂原市役所 502 会議室
出席委員	関谷昇、児玉庸夫、鬼島義明、石井利明、鈴木秋彦、高貫博樹、田中保藏、中田文昭、西條博光、松岡賢太、松村暁雄、緑川昭夫、吉田克己、渡邊公治、磯野智由、大塚節子、横堀明子 (計 17 名、敬称略)
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 副市長あいさつ 4. 自己紹介 5. 会長・副会長選任 6. 諮問書提出 7. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 茂原市総合計画審議会について (2) 茂原市総合計画策定方針について (3) 茂原市総合計画策定体制及び策定スケジュールについて (4) 茂原市の概況について (5) 基本構想序論について (6) 将来都市像のイメージとキーワードについて (7) 人口推計について (8) その他 8. 閉会

【議事要旨】

事務局：10月25日に予定されていた第1回審議会が大雨により中止となったため、本日は第1回と第2回の審議会を合わせて開催させていただく。

- (1) 茂原市総合計画審議会について
- (2) 茂原市総合計画策定方針について
- (3) 茂原市総合計画策定体制及び策定スケジュールについて
- (4) 茂原市の概況について

〈事務局より一括で説明。委員から質問、意見なし〉

(5) 基本構想序論について

〈事務局より説明〉

会長：序論の16ページにある「第7節 まちづくりにおいて注目すべき点と重点課題」について、本日は最初の会議でもあるので、委員お一人ずつからご意見をいただきたい。

委員：茂原の歴史や文化を大事にし、観光行政などに活かしていくとよい。市民がまちに誇りを持てるようにするべきだと思う。陰で茂原を支える人たちを大切にすると良いと思う。地域コミュニティの形成が一番大切だと思う。市民が支え合い助け合うことが重要になるため、人が集まって話し合える場所をつくる必要があるのではないか。自治会で集まる場所は、自宅から500メートル圏内にあると良いと言われていた。行政は自治会の活性化を支援していくべきだと思う。自治会が活性化しないと、夢も語れず人とのつながりも薄くなっていくのではないかと。生活インフラの維持にお金がかかってしまうため、市内に散在している住宅などを集約していく必要があると思う。高齢者、子ども、親がみんなで話し合える場所を10年かけて整備していくべきだと考えている。

委員：茂原は外房の中核都市として発展してきた。都心へは1時間、圏央道の開通、来年にはスマートインターチェンジの開通など、アクセスが良くこれからも伸び行く茂原として期待している。温暖な気候の中で、豊富な天然ガスがあり恵まれた産業がある。にはる工業団地や現在造成中の本納ニュータウンは、いずれも圏央道の茂原北インターチェンジに近く、茂原の産業に活力が出ると期待をしている。

重点課題としては、今回の災害により、長年の課題であった災害に強いまちづくりが浮き彫りとなった。地域のつながりが希薄となった昨今、自治会の連携の中でお互いが助け合う必要性を再認識させられた。

農業に関しては、茂原市では耕作放棄地、遊休農地が増えているが、これは、従事者の高齢化や担い手不足が原因である。新治地区では遊休農地が保全されているが、他地区では荒れている農地も多く、行政も中に踏み込んでいく必要がある。農業委員会としては、行政とともに、遊休農地を減らし、茂原市の基幹産業である農業を守っていききたいと思う。

委員：茂原市は医師や看護師など医療資源の非常に少ない地域である。大きな病院があればよいというわけではない。小児科や産科が閉鎖されると、ますます子どもが減っ

てしまう。医師の招聘は長いこと試みているが、あまりうまくいっていない。全国的な傾向だが、医師の高齢化も進み、若い医師は外に出ていってしまっている。

茂原には、活力がないというか、「これでよい」と思っているところがあり、そのような気持ちを変えないといけないと思う。外から若い人を入れないと活性化しないが、なかなかうまくいっていない。また、茂原の良い所が外に発信されておらず、全国的に知られてない。もう少しアピールすべきだと思う。最近では文化的な施設が少なくなっており、文化活動ができる場所を行政と一緒につくる必要がある。文化のない所に人は来ないと思う。

茂原は暖かく、海にも山にも近く、東京から 1 時間とアクセスも良いが、これらがアピールされていない。もっと欲を持って変えていこうという気持ちが少ない。周りの自治体の方が元気があり、茂原だけ置いていかれているという印象を受けている。

委員：まちづくりの実践をしている立場から申し上げる。駅前の区画整理からまちづくりを議論している。茂原は昔は工業都市であったが、今はどのような都市かと聞かれても答えるものがない。区画整理の中で核になる施設の建設を考えているが、まちの方向性の中での役割を考えると、茂原市としてどのようなまちになるかが重要となる。市街化していく区域としない区域をはっきり仕分けすることによって、コンパクトシティを進めることも必要になると思う。核になる施設には、文化施設や茂原で弱い高度医療の施設を入れたいと思っている。

委員：茂原には、日蓮宗のお会式をはじめとした歴史的な伝統が多くあるが、それらは断片的にしか知られていない。太平洋戦争で使われた掩体壕（飛行機格納庫）の跡地など、あまり思い出したくない歴史も含めて伝えていく必要があると思う。

茂原から人が出ていくばかりで、戻ってくるのは昔住んでいる人だけだと思っていたが、縁もゆかりもない人も引っ越してくるといふ。しかし、子育て支援が十分でなかったため、茂原から出ていった人もいる。長く住み続けたい要素を大事にしていく必要があると思う。

市民の生活を大事にしていく施策が重要であると思う。人は一人では生きていけず、支え合って生きている。地域コミュニティにおいて、自治会活動に市民が積極的に参加する必要がある。助けられるのを待つのではなく、能動的に行動する必要がある。

委員：茂原市は、市民参画の仕組みがよくできているが、人口減少が進む中で市民一人ひとりの役割を簡素化していく必要があるので、計画をもっとシンプルでわかりやすいものにする必要があると思う。人口減少・少子高齢化の中で、女性の役割を大き

く捉えて、女性が活躍できる場をつくることや、起業を支援していく必要がある。女性が住みたいと思うと家族も住みたいと思う確率が高くなる。子どものうちからまちづくりの一翼を担う仕組みを作れないものか。行政と教育委員会が協力して動いてもらいたい。

人口減少に伴い、都市構造をコンパクト化していく必要がある。まちづくりに多様なプレーヤーを入れ、民間資本で民間事業者がまちづくりを進めていく必要がある。千葉市では公園や工業団地をつくり、行政が支援している。都市機能を共有するなど、周辺自治体との間で広域連携を進めていただきたい。

他の自治体にない茂原市独自の資源は、天然ガスである。医療や福祉分野で、行政と民間のパートナーシップにより天然ガスを活用したまちづくりをもっと積極的に進めていただきたい。10年というスパンは多くの投資ができない中で、工夫と絞り込みで特徴あるものにしたいと思う。

委員：10年後の人口は予測できるため、それに対応した具体的な施策が必要となる。茂原の自然環境は素晴らしく、住みやすい。高齢者が自由に移動できるインフラ整備や交通機関の整備が重要だと思う。大学で茂原市外に出ていくのは仕方がないが、若い人が茂原で生活できるように、子育て環境の整備が重要だと思う。

高齢のために病院に行けない人が多い。バスやデマンド交通は徐々に利用者が増えているが、まだ十分でない。病院や買い物のために使う人が多いため、支援が厚くなるとよい。

医療体制の充実が重要な問題である。何もかも自立した行政運営は難しく、長生病院を総合病院にすることはできないため、郡内7自治体の医療機関が、それぞれの得意分野を生かしながら連携できないか検討している。

茂原に工業団地を造って人口を増やすには、時間とお金がかかってしまうため、「住みやすいまち」として人を定住させる方向性がよいのではないか。茂原は水害が多いが、川の改修が進んでいない。生活の場を整える必要がある。

委員：茂原はアクセスが良い。成田・羽田両空港に近く、東京都心へも1時間で行ける。周辺から買い物へ来る人も多い。一方、課題については、市民アンケートから20歳～30歳代で住み心地が良くない、転居したいと思っている人が多いことがわかる。若い人は住み良いと感じていないのは、休日に遊ぶ場所がなく、市外に足を延ばさないといけなからだと思う。また、車がないと駅に行く手段が少ない。逆に、30歳代や40歳代などは住み良いという回答が増えているように、住んでみると住み心地がよくなるのかもしれない。

子育て世代は、働きながら子どもを預ける場所があれば安心なので、医師不足は課題だと思う。これが解決できれば住み良さを感じることができると思う。

委員：茂原は立地が良いゆえに、それに甘えているのではないか。木更津ではバスターミナルに大きな駐車場があるように、いい立地をさらに生かす工夫があるとよいのではないか。

市内の小学校では、茂原を愛する子どもを育てることを重視している。一時期は茂原の外に出ていかざるを得ないかもしれないが、茂原を愛する心があればいつか戻ってくると思う。その思いを受ける受け皿を準備して活気ある茂原市にしていく必要があると思う。東京オリンピックのサーフィン会場になる一宮町では、一時期児童数が減少したが、現在は増加している。趣味で朝にサーフィンをして、通勤で東京に行く人が多いらしい。このように、外で働いていても茂原に住めるようなまちになっていると良いと思う。

委員：茂原は、家庭用の都市ガスは日本でも有数の安さである。昭和30年代では茂原にしか天然ガスがなく、企業が集まってきたが、現在は日本中どこでも天然ガスが手に入るため、優位性はなくなった。しかし、昔からの企業の社員は残っているため、電子技術者が多くおり、ITスタートアップが期待できると思う。今話題のレジリエンスに関しては、エネルギーの安全性を担保することを特徴として出せるのではないか。また、SDGsの考え方でも、災害に強いことは今後特徴にできる点だと思う。

委員：茂原のような外房地区が都市部に勝てるのは、自然だけだと思う。周辺の自治体で人口減少がかなり進んでいる。茂原は周辺自治体と比べると減少幅が少なく、優位性が高い。

一番重要なのは、治水事業、安心だと思う。液化化現象が起きた浦安では、他の地域から土地や家を買おうとする人はいなかった。

人口減少に対しては、国でガイドラインが決められているため、どこの自治体でも同じようなことをしている。茂原市はできればとがった計画を作ってもらいたいと考えている。

委員：高校卒業後に茂原から出て、5年後に戻ってきたが、自然が一番良い点だと思う。私が茂原に戻ってきた際に、子どもが2歳だったが、保育園に入れなかった。公園や子育て施設が少ないと思う。千葉市の緑区はとても充実していた。茂原市も改善していただければと思う。

委員：人が来たくなるまち、住みたくなるまち、働きたくなるまちを目指すことが重要だと思う。ハード面だけではなく、住みやすくなるための支援や子育て世代へのフォローが重要だと思う。アクセスやインフラは良い。

自治会は、革命的な方法で若い人が入りたくなるようにするべきだと思う。駅周辺の駐車場など、インフラを生かす都市のあり方があると思う。

委員：子育て環境が良ければ、人が集まると思う。保育園で子どもをあずけることができれば、親は安心する。そうすれば市外で働いていても安心できる。高齢者にはもっと地域で活躍していただき、現役世代は市外で働いていても、夜や休日は茂原で過ごすと思う。女性が働く環境を整備すれば、男性もついてくると思う。産婦人科は2つしかなく、減るかもしれない。子育てするなら茂原で、と言える環境ができればよいと思う。

委員：改善はされているが、フルタイムで働いている母親を支援する施策が必要だと思う。茂原は、歩いて行ける近所に自然があることが良いと思う。「暮らしやすいまち」の定義は年代によってかなり隔たりがあるため、丁寧に皆さんの意見を聞いて施策を考える必要があると思う。

委員：以前都内に通勤していた際は、アレルギー鼻炎だったが、大網に住んで治ったので、住みやすい地域だと思う。沢井製薬があるように、企業の受け皿として良いと思う。しかし、医師の不足、総合病院がないなど医療はあまりよくないと思う。

会長：色々な視点の意見をいただいたので、たたき台として参考にさせていただきたいと思う。

(6) 将来都市像のイメージとキーワードについて

〈事務局より説明〉

会長：注目すべき点を踏まえた上で、将来都市像に関するキーワードがあれば、ご意見いただければと思う。

委員：「安心」だと思う。

会長：先程から意見で出ている「安心・安全」については、災害対応や、安心して地域で暮らせるという視点が大事だと思う。

委員：「自然」だと思う。市外の人の方がより感じると思う。

会長：自然の中身が多様にあると思う。自然環境を守るという視点や、自然エネルギーをどう活用していくか、どう PR していくかという視点もあると思う。

委員：「自立」「外房の中核都市」という自覚を行政や市民がもっと持つべきだと思う。持続可能な思考に関わる言葉が計画に入るとよいと思う。今後 10 年間は治水や災害に強いまちに軸足を移し、アピールすることが必要だと思う。今回の災害で茂原が全国区になってしまったが、それを逆手にとって災害対策をメインにするとよいのではないか。現在も困っている市民がいるため、市民を力づける意味でも重要だと思う。

会長：自然災害にどう立ち向かうか。一般的な防災計画が機能していないところも多い。ネットワークや連携が必要だができていない。中核拠点としての可能性も重要である。どの自治体も単独でするのは難しく、子育てや観光について連携しており、様々な形の広域連携が重要となってくる。

委員：「安心」というフレーズがよいと思う。今後も自然災害はエスカレートしていくと思う。市民は現在の計画のテーマを共有していない。「安心」など、簡単な一言で市を方向付けると、市民が共有でき、浸透していくと思う。

会長：総合計画は行政目線で語られがちだが、市民目線で語らないと「われわれの計画」になっていかない。

(7) 将来人口推計について

〈事務局より説明〉

委員：統計的な予測よりも減少率を抑制するために、市でどのような施策を考えているか。

事務局：国が主導でどの自治体も総合戦略を策定している。4つの視点があり、雇用の確保、子育て支援、にぎわいと創出、まちの基盤整備によって対策をしている。

委員：国が主導しているため、どの自治体も似たような施策をすと思う。全国の人口のパイは増えないため、他自治体との競争になり、勝てない可能性もある。茂原市ならではの施策に相当踏み込まないと実現できないと思う。ソフトでの支援は単年度の財政で見るとそれほど大きくないが、継続的に行うと効果が出るため、丁寧な政策が必要だと思う。

会長：人口推計で想定されている定住人口だけでは、視点として不足していく。近年は、関係人口や交流人口が注目されている。茂原市に関係する人、訪れる人、産業で協力する人、ふるさと納税をする人、チャレンジする人などを増やす視点が重要となってくる。

定住人口の視点から発想を変えることも必要だと思う。

本日のキーワードとして、「関係性」を挙げたい。これには連携やつながりも含まれる。これからのまちづくりの力を引き出すためには、世代、分野、団体、領域、近隣自治体がつながることが問われてくる。単独でするには限界がある。協働のまちづくりは、異質なものの掛け算のまちづくりである。

また、相互評価のまちづくりも今後重要になる。色々な資源を相互に評価する。例えば教育では、教わる、教えるの関係性を固定するのではなく、両者の関係性を深めていく。経済では物をつくる、買う、福祉では支える、支えられる、観光では訪れる、もてなす、など相互の関係性を深めていく。また、上から下ではなく、フラットに関係性を作る中で可能性を膨らませていく。

(8) その他

〈特になし〉

以上